中大規模木造建築 | カモ井加工紙 営業事務所棟

Concept.1

企業の思いをかたちにする建築

工場とは異なる「人の場」として、企業の顔となる事務所棟をめざしました。地域に開かれた存在として、ランドマーク性も大切にしています。

Concept.2

自由な空間を支える、新たな木架構

将来の変化にも柔軟に応えるため、構造体の制約を超える新しい木架構に挑戦。レシプロカルバインド工法で、柱や梁にとらわれない空間を実現しました。

Data

完成年月 2023年 1月

所在地	岡山県倉敷市片島町236	新築・改修	新 築
建築主	カモ井加工紙 株式会社	用途	事務所
建築面積	636.78㎡	延床面積	664.68㎡
階数	地上２階 / 地下 なし	構造種別	木造
設計者	株式会社 ＴＮＡ		
施工者	株式会社 藤木工務店 倉敷支店		

Point

使用木材m³数	153m³
炭素固定量	58トン
地域県産材	1割程度

将来に継承される遺産としての新しい工場の風景

群としての統一感

この営業事務所棟は工場敷地内で同一設計者が設計し、当社が施工した４番目の建物です。

本来であれば門の近くの営業事務所棟を起点に建て替えを進めるのが一般的ですが、プロジェクトでは敷地の奥にある、第三撹拌工場史料館から計画が始まりました。この史料館は人びとの交流の場として再生され、敷地全体の新たな起点となっています。

mt新倉庫は、フォークリフトの回転半径や通路幅、耐火性能などから規模が定まり、防災計画に基づいて離隔距離や防火水槽との位置関係も丁寧に検討し配置されました。こうした積み重ねにより、生産の場としてのスケール感が敷地全体に広がり、工場の風景が次第に街並みのような表情を見せ始めています。

敷地境界には高いフェンスがなく、住宅地からも工場の奥まで見通すことができます。そうした開かれたつくりが、ものづくりの現場をそのまま工場の「顔」とし、周辺環境との新たな関係性を築き始めています。

カモ井加工紙第三撹拌工場史料館

カモ井加工紙mt倉庫新築工事

カモ井加工紙裁断棟

大規模木造にて配慮した技術・ポイント

レシプロカルバインド工法

ＸＹＺ ３方向の210mm角の部材を互いにピタリと接触しあうところまで近づけつつ開き止めの大きな座金の付いたボルトでそれぞれを結ぶというシンプルな接合工法。

採用に際しては、相応の安全性確認が必要で、今回は京都支店とも連携し、京都工芸繊維大学村本真研究室で実験を行った。その結果をもとに日本建築総合試験所で建築技術安全審査を受け、確認申請を提出した。純ラーメン構法として木架構のデザインの可能性を拡げた工法です。

BEI 0.95

建築主／設計者の声

この営業事務所棟は、企業の顔として発信する地域のランドマーク的存在の空間を持ち合わせており、従業員のための執務空間である。将来的な執務部門の拡張・移動、製品の展示スペース、ワークショップなど、工場の内外に開かれた活動にも対応が出来る様に設計した。